

# 租税教育実践レポート

## 身近な生活と税金のかかわり～私たちが主人公～

登米市立中津山小学校教諭 6学年 袋 由利

実施年月日：令和4年5月27日 25名

### 1 実践計画・指導のねらい

児童の実態調査から、「税金」という言葉は全員が知っていた。また、税金の中に消費税があることや買い物をする際に10%の消費税を支払っていることも知っていた。しかし、その目的や使い道についてはよく分からない児童がほとんどであった。「高い買い物をするとう損した気持ちになる。」「消費税は払いたくないのが本音だ。」という声が開かれた。そこで本単元では、災害復旧の取組について学習しながら、税金の役割と必要性に気付かせ、税金についての正しい知識を身に付けさせたい。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	つかむ【東日本大震災の発生】 ・東日本大震災の発生とまちの人たちの願いについて話し合い、学習問題をつくる。	○ 災害にあった人たちは、どのような願いをもっていたのだろうか。 ● 住むところを何とかしてほしい。ライフラインを整えてほしい。 ● 当たり前前の生活に早く戻してほしい。（学校や職場、スポ少や習い事など） ● 地震で陥没したりゆがんだりした道路が元に戻ることができたのはなぜだろう。 □ 使用教材名 宮城県登米市「東日本大震災の記録」
2	調べる【東日本大震災への緊急対応】 ・地震直後の市や県、国の取組について調べまとめる。	○ 東日本大震災が発生したとき、市や県、国はどのような取組をしたのだろうか。 ● 市は災害対策本部を設置し、避難所開設や被害状況の確認をした。 ● 宮城県や国は自衛隊に派遣要請をし、物資を送る準備などをした。
3	調べる【復旧・復興に向けた国の支援】 ・災害復旧や復興に向けた国の取組について調べまとめる。	○ 復旧・復興に向けて、国はどのような取組を行ったのだろうか。 ● 国は第一次補正予算を成立させた。 ● 必要な法律をすみやかに制定したり、特別な予算を立てたりした。
4	調べる【税金の働き】 ・市民の願いを実現するための「税金の使われ方」について調べまとめる。	○ 登米市の道路を修復するための費用はどこから出されたのだろうか。 ● 税金を使って建てられた。国からの援助。 ● 税金は自分たちの暮らしや社会を支える大切なもの。 □ 使用教材名 小学校社会科学習資料「わたしたちのくらしと税金」 国税庁ホームページ「税の学習コーナー」
5	調べる【租税教室】 ・税金が自分たちの生活と密接にかかわっていることや税金の必要性などについて理解する。	○ 税金は自分たちとの生活にどのようにかかわっているのだろうか。 ● もし税金を支払わないと大変なことになる。まちがゴミ屋敷になる。火事になっても助けられない。 ● 1億円の重さを体感し、お金の大切さを実感した。 ● みんなが豊かで安全・安心な生活を送るためのもの。 □ 使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
6	調べる【復興を願う市や市民の取組】 ・復興に向けて、市や市民の取組について調べまとめる。	○ 気仙沼市では復興に向けてどのような取組をしたのだろうか。 ● 震災復興計画を立て、住宅や道路、橋の整備、魚市場の建設などをした。 ● 新しいまちづくりには税金が使われている。
7	調べる【これからのまちづくり】 ・これからのまちづくりに向けた課題や取組について調べまとめる。	○ 気仙沼市にはどのような課題があるのだろうか。 ● 人口の減少。 ● もっと魅力のあるまちづくりを進めていきたい。
8	いかす【自分たちの地域に目を向けてみる】 ・3年後に米山町内3校が統合する公共施設複合化整備事業について知る。 ・みんなにとってよい施設（学校）にするにはどのようにしたらよいか話し合う。	○ 小学校3校が統合する際、どのくらいの税金がかかるのだろうか。 ● 米山総合支所、米山公民館、米山体育館、米山児童館、小学校がひとつになるから新しいまちができそう。 ● 多額の税金が使われることになる。 ● 自分たちの税金が使われることになるので、大切にしていきたい。 ● 地域みんなにとって大事な施設になるので、大切にしていきたい。 □ 使用教材名 宮城県登米市「登米市の予算とまちづくり」

#### 【指導のポイント】＜1時間目＞

子どもたちは東日本大震災の年に誕生した。「東日本大震災の記録」資料を活用し、当時の被害状況や震災直後の生活の様子について示した。被災した人たちの願いについて考えさせた。

#### 【指導のポイント】＜3時間目＞

デジタル教材を活用したことで、がれきの撤去の様子や復旧・復興していく様子を映像で捉えることができ、まちが少しずつ変化していく様子を確認することができた。合わせて、まちの復旧や復興には多額の費用がかかることに気づき、その費用がどこからまかなわれているのか興味・関心をもつことができた。

#### 【指導のポイント】＜4時間目＞

1時間目に児童から出された疑問を課題設定したことで、意欲的に税金について調べることができた。資料を活用したことで、税金について多面的に学ぶことができ次時の租税教室へとつながることができた。

#### 【指導のポイント】＜5時間目＞

1億円のレプリカや分かりやすい内容のDVDが効果的だった。子どもたちにとって身近な生活に関する内容や学校がテーマになっていたことがよかった。税金のありがたみや必要性に気付くことができた。

#### 【指導のポイント】＜8時間目＞

学習したことを生活に生かそうと、地域に目を向けさせた。税金の役割や必要性について自分事として捉えることができた。

### 3 実践の成果（◎）と課題（◆）

- ◎ 東日本大震災による復旧・復興の学習を通して、自分たちの暮らしと政治の働きについて理解することができた。そして、その費用は税金によってまかなわれていることを知り、理解を深めることができた。
- ◎ 外部講師による租税教室を実施したことで、児童の関心が高まり税金の大切さを実感することができた。また、税金の種類や使いみちだけでなく、税金の必要性や納税の義務について理解することができた。児童の感想からもその様子がうかがえた。「税金がないと環境が悪化し、安全な生活が送れないことが分かった。」「税金がないと万が一火事が起きた際、国がお金を支払ってくれないので、火事を出した家が多額なお金を請求されることを知った。それではいけないと思う。」「小学校の授業料が1ヶ月70,000円、1日3,500円もかかってしまったら大変なことだ。」「税金はしっかり納めなければならない。」
- ◎ 学んだことを生かし、「税に関する絵はがきコンクール」「税に関する標語コンクール」に応募した。標語コンクール 優良賞4名
- ◆ 国の政治や税に関する学習は4月～6月である。絵はがきコンクールや標語コンクールの時期とずれが生じ、学んだことをすぐに生かすことができなかった。
- ◆ 消費税以外の税は子どもたちにとってなじみがないので、おうちの人へ納めている税金についてインタビューするなどの活動があれば、さらに理解を深めることができた。